

## イチゴ栽培におけるミツバチの適正な訪花活動数

### 研究のねらい

イチゴ「やよいひめ」栽培で利用するミツバチについて、適正な訪花活動数に関する知見はありませんでした。そこで、ミツバチの効率利用を図るため、栽培面積当たりの適正な訪花活動数の範囲を明らかにしました。

- 2 ミツバチの訪花が過剰な場合は、葯は採取され、花弁や花柱が傷んで黒変した花がみられるようになり、奇形果が発生します(図2 A、B)。
- 3 ミツバチの訪花が少ない場合は、訪花不足による奇形果が発生します。

### 技術の特徴

- 1 ミツバチの訪花活動数の適正な範囲は、100㎡当たりで3～20匹程度になります(図1)。活動数については、日中の活動が盛んなとき(晴天時の10時～13時)にハウス内を一巡して、訪花中の蜂数を確認します。

### 今後の取り組み

促成栽培において栽培期間を通じてミツバチの群が維持できるように、冬季の温室における蜂群の温度管理技術の開発に取り組みます。  
(執筆者：宮本 雅章)

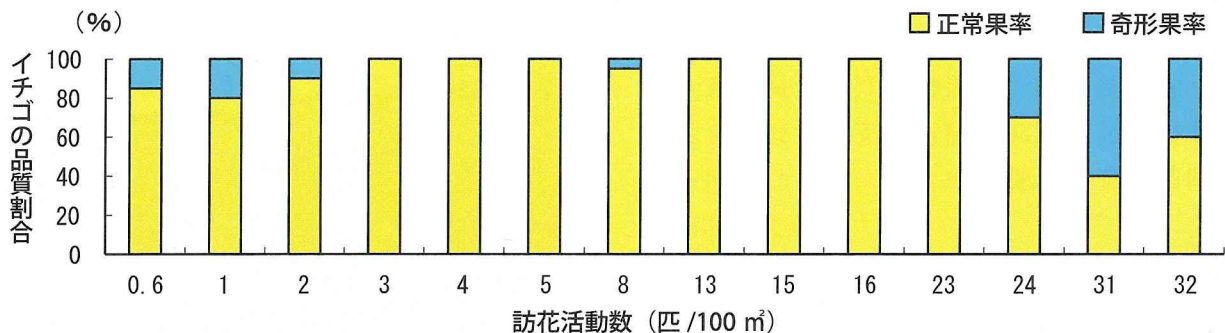


図1 ミツバチの訪花活動数とイチゴの着果、果実品質の関係

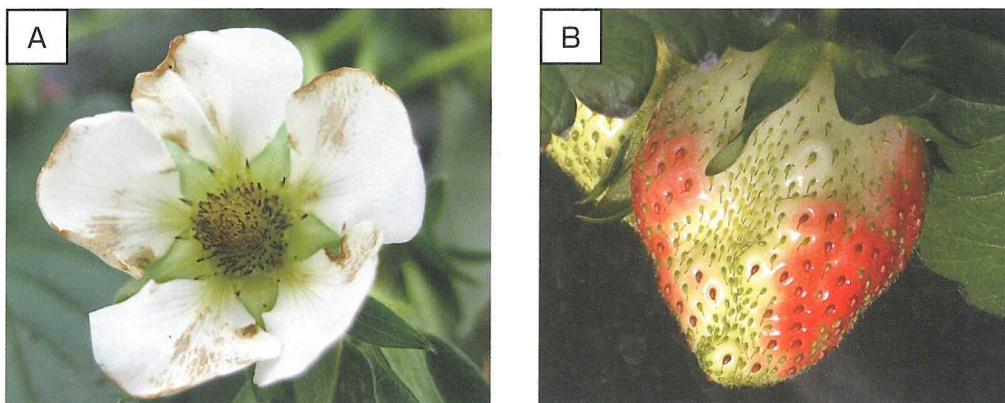


図2 ミツバチの過剰訪花によるイチゴの被害と奇形果

- 過剰訪花による被害花。葯は採取され、花柱が黒変し、花弁も傷んでいる。平成22年2月農業技術センター(伊勢崎市)にて撮影。
- 過剰訪花による奇形果。平成21年2月伊勢崎市内現地圃場にて撮影。